





機関誌 第27号

# 自民石川

自由民主党  
石川県支部連合会  
組織広報本部

金沢市鞍月5-255  
TEL 076(237)0911(代表)  
FAX 076(237)0915  
<http://www.jimin-ishikawa.jp>

発行責任者:米澤 賢司

## 復興阻む制度の改正に全力

石川県政史上、未曾有の大災害となつた能登半島地震。その復旧・復興の取り組みと今後の抱負を佐々木紀代議士（自民党石川県連会長）に聞きました。

岸田総裁らに支援要請

発災直後、小松市役所の災害対策本部で情報収集に努め、2日以降は石川県庁の知事室に詰め県幹部と対応を断続的に協議、1月11日には上京して岸田総裁はじめ党幹部、国土交通省幹部に現状報告と支援を要請しました。

同時に、被災地を回つて旅館、商業、農林水産業、伝統産業関係など被災状況の確認や、二次避難されてきた被災者の声の把握に努めました。

今回の能登半島地震では、復旧・復興を進めるための諸制度が不完全であることなどが明らかになりました。それは、アクセスが極端に悪く、高齢化の進んだ半島特有の事情を考慮、反映して

### 半島特有の事情 考慮した新制度を

形で加速させていきます。  
災害はいつどこで起きるか分かりません。万一、石川2区で発災した場合でも迅速、的確な災害対応が取れるよう経験を積み、制度を整え、より安全なふるさとづくりに尽くします。



石川2区  
佐々木 紀氏

いなかつたことが原因です。この問題を解決するには法改正も含めた新たな制度設計が重要であり、われわれの働きかけにより、国も問題点の検証と法改正の勉強会をスタートさせています。

### 県連推進本部を核に加速

4月、党県連会長に就任し、「能登半島地震復旧・復興推進本部」を立ち上げました。これを核にして、公費解体や液状化、生活やなりわいの再建などを阻む既存の制度の改正に挑戦しています。例えば、福祉機能を付加した仮設住宅団地や復興基金の創設も成果の一端です。

このように政治が力を発揮して工夫して取り組めば、復興は必ず成し遂げられますが、それを目に見える

## 私たち県議も最前線で



横山 隆也 氏 (3期)  
白山市選挙区



八田 知子 氏 (3期)  
小松市選挙区



室谷 弘幸 氏 (4期)  
加賀市選挙区



善田 善彦 氏 (4期)  
能美市能美郡選挙区



作野 広昭 氏 (6期)  
白山市選挙区



福村 章 氏 (12期)  
小松市選挙区



竹田 良平 氏 (1期)  
小松市選挙区



亀田 豊 氏 (1期)  
能美市能美郡選挙区



馬場 弘勝 氏 (1期)  
野々市市選挙区



高辻 伸行 氏 (1期)  
加賀市選挙区



安実 隆直 氏 (2期)  
白山市選挙区



伊藤 幸広 氏 (3期)  
白山市選挙区

## 総力戦で地域復興と生活重建へ



機関誌 第27号

Liberal and Democratic

# 自民石川

自由民主党  
石川県支部連合会  
組織広報本部

金沢市鞍月5-255  
TEL 076(237)0911(代表)  
FAX 076(237)0915  
<http://www.jimin-ishikawa.jp>

発行責任者:米澤 賢司

## 復興基金を活用し能登を再生

石川県政史上、未曾有の大災害となつた能登半島地震。その後の抱負を西田昭二代議士(総務大臣政務官)に聞きました。

西田昭二代議士は、被災地の深刻な実情を総務大臣政務官として官邸や関係官庁に訴え続けてきました。この中で、岸田総理の深い理解もあり、熊本地震の300億円を凌駕する540億円の復興基金を創設できたことは、責任

これまで、自ら体験した被災地の深刻な実情を総務大臣政務官として官邸や関係官庁に訴え続けてきました。この中で、岸田総理の深い理解もあり、熊本地震の300億円を凌駕する540億円の復興基金を創設できたことは、責任

### 経済再生に注力 今まで以上の活気を

発災から7カ月あまりがたち、公費解体の加速やインフラの完全復旧と強化、農林業者などの支援、なりわいの再生、被災者の心のケア、液状化対策の推進といった課題が山積しています。これらを俯瞰し、一つひとつ取り残さず丁寧に解決していくことが、私に課せられた責務だと身の引き締まる思いでいます。

これまで、  
自ら体験した  
被災地の深刻  
な実情を総務

大臣政務官として官邸や関係官庁に訴え続けてきました。この中で、岸田総理の深い理解もあり、熊本地震の300億円を凌駕する540億円の復興基金を創設できたことは、責任

これまで、  
自ら体験した  
被災地の深刻  
な実情を総務

合わせて、震災で多くのものを失い、避難生活で疲れ傷ついた被災者の皆さんのことと一緒に忘れてはいけません。よりどころとなる地域コミュニティーの再建をはじめ、心のケアや地域の絆を重視した復旧と復興でなければ、仏作つて魂入れずにあります。

### 解決へ取り残さない決意

石川3区  
にしだ しょうじ  
西田 昭二 氏

石川県政史上、未曾有の大災害となつた能登半島地震。その後の抱負を西田昭二代議士(総務大臣政務官)に聞きました。

今後は、この復興基金をフル活用して、従来の制度ではカバーできなかつた諸課題の解決に当つてまいります。特に、経済再生は復興の要であり、地元企業の支援、新しい産業の創出、観光業の再生と振興、農林水産業の支援などを通じて、能登を今まで以上に活気あふれる地域にすることを目指します。

### 心のケアと地域の絆を守る

今後は、この復興基金をフル活用して、従来の制度ではカバーできなかつた諸課題の解決に当つてまいります。特に、経済再生は復興の要であり、地元企業の支援、新しい産業の創出、観光業の再生と振興、農林水産業の支援などを通じて、能登を今まで以上に活気あふれる地域にすることを目指します。

## 総力戦で地域復興と生活重建へ

### 私たち県議も最前線で



平蔵 豊志 氏 (4期)  
珠洲市鳳珠郡選挙区



焼田 宏明 氏 (4期)  
河北郡選挙区



宮下 正博 氏 (6期)  
輪島市選挙区



和田内 幸三 氏 (9期)  
七尾市選挙区



稲村 建男 氏 (11期)  
羽咋市羽咋郡南部選挙区



石田 章 氏 (1期)  
羽咋郡北部選挙区



堂前 利昭 氏 (1期)  
珠洲市鳳珠郡選挙区



清水 真一路 氏 (2期)  
七尾市選挙区



太田 臣宣 氏 (2期)  
河北郡選挙区



沖津 千万人 氏 (3期)  
かほく市選挙区

# 能登創造的復興タスクフォースが本格稼働

県は7月、被災地の課題を省庁横断で共有し、早期復旧・復興を図るため「能登創造的復興タスクフォース」を設置しました。タスクフォースには国土交通省や環境省など7府省の職員150人が常駐、以下、喫緊の課題となつている家屋の公費解体について、座長を務める長橋和久内閣官房復旧・復興支援総括官は「行政手続きや工事発注の遅れを解消するためには、必要に応じて特例措置も検討していく」としています。

## 県の復興プランを 人的にバックアップ

県は今年4月、復旧・復興推進部を新設し、部長以下5人体制で市町と連携しながら取り組んでいます。2032年度までを計画期間とす

る国は7月、被災地の課題を省庁横

## 能登半島地震復興基金

### 制度のすき間埋める 支援に活用

震災対応を軸に議論した県議会6月定例会では、「令和6年能登半島地震復興基金」が創設されました。基金の財源となる特別交付税は、熊本地震復興基金など過去の基金の算定期則による金額に220億円も上積みされた520億円となりました。

同基金の大幅な上積みは、特別交付税を管轄する総務省で大臣政務官を務める西田昭二代議士の尽力によるものであり、西田代議士抜きにはあり得ませんでした。

県では、520億円に能登半島地震被災地支援宝くじ収益金の県分20億円を加えた540億円を元に、被災市町の意向を十分に踏まえて国の制度のすき間を埋め、被災者や被災事業者支援などにフル活用していくため、9月補正予算以降、順次、基金を活用した事業を予算化して、多くを被災市町に配分していく方針です。

早速、大きな被害を受けた和倉温泉を視察し、公共護岸を国が代行復旧するとともに、民有護岸についても所有権を自治体に移管し再整備する方針を明らかにするなどスピーディーな対応に期待が



和倉温泉の視察を終え、記者会見する岸田首相

7月1日の奥能登行政センターで開催されたタスクフォース発足式には岸田首相が出席し、「課題を震が関一体となつて解決する。被災地自治体の「一々に沿うたまちづくりを全力で支援する」と決意を込めました。

「県創造的復興プラン」を策定し、「教訓を踏まえた災害に強い地域づくり」「能登の特色ある生業の再建」など4つの施策の柱に沿つて、今後、13の「創造的復興リーディングプロジェクト」を展開していくます。タスクフォースは、県的に支えるものとして「能登創造的復興プランの具体化を人材的にバックアップする組織」として、財政的に支えるものとして「能登半島復興基金」も創設されました。

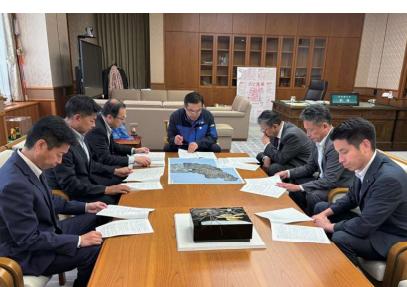
7月1日の奥能登行政センターで開催されたタスクフォース発足式には岸田首相が出席し、「課題

を震が関一体となつて解決する。被災地自治体の「一々に沿うたまちづくりを全力で支援する」と決意を込めました。

佐々木紀・自民党県連会長は「国、県、党が力を合わせ、従来の制度の限界を何とか突破して復旧と復興を加速させ、能登半島の復興を全国の過疎地や生活困難地域のまちづくりのモデルにしたい」と語ります。



地震で崩れた護岸や旅館敷地などを視察



被災市町の要望書を馳知事に提出後、懇談する復旧・復興推進本部のメンバー

## 県連復旧・復興推進本部を設置

自民党県連の能登半島地震復旧復興推進本部は6、7月、被災した市町を訪問し、それぞれが直面する問題点を首長から直接聞き取るとともに、県への要望事項をまとめて馳知事に渡しました。

事務局長を務める焼田宏明・県連総務会長は「復興基金も有効活用し、被災者の皆さんのが公平感や不満を解消する対策に全力を挙げたい」と話し、推進本部として地元自治体と党本部、県を結ぶ役割を果たす決意です。



珠洲市でのボランティアに参加した党本部青年局、県連青年局の皆さん



冷やしうどんで被災者を勇気づけた  
党県連女性局の炊き出し

自民党県連青年局と女性局は、能登半島地震の被災地でがれきの撤去や避難所での炊き出しなどのボランティアを行っています。

青年局は5月に七尾市、6月に珠洲市で実施しました。6月は党本部青年局（鈴木貴子局長・衆院議員）との合同で現地に入り、被災した家屋で家財道具の運び出しや

室内清掃、災害ごみの集積場への搬入などに汗を流しました。

女性局は7月、指定避難所となる志賀町富来活性化センターを訪れ、冷やしうどん200食をふるまうとともに、復興への思いを込めた書道パフォーマンスを行い、被災者の皆様には短冊に復興への願いを書いて頂きました。

亀田豊青年局長は「住民の生の声を大切にし、今後の支援に役立てたい」、久保洋子女性局長は「手際よく提供することができ、とても喜ばれて嬉しかった」と話します。

## 青年局・女性局が 被災地でボランティア